

FUJITSU Server PRIMERGY BX2560 M2/BX2580 M2 ご使用上の留意・注意事項

FUJITSU Server PRIMERGY BX2560 M2/BX2580 M2 サーバブレードに関して、下記の留意・注意事項がございます。
本製品をお使いになる前に、本書をよくお読みになり、理解されたうえで本製品をお使いください。

2019 年 4 月
富士通株式会社

【BX2560 M2 のみ】

1. Windows Server 2012 (R2) の「記憶域スペース」ご使用の場合の注意事項

「記憶域スペース」に使用する PRIMERGY SX980 S2 ストレージブレードの HDD の状態監視は Server View RAID Manager では行えません。

2. BX2560 M2 の外形寸法について

本製品は従来機 BX2560 M1 と同様に旧機種 BX920 S4 に比べ、搭載部品増加により実装容積が増え、前面が約 15mm 突出していますが、サーバの機能としては問題ありません。

3. SAS エクスパンダー拡張ボードについて

本製品に SAS エクスパンダー拡張ボード (PY-SED34/PYBSED342) を搭載する場合、下記ファームウェア版数の組み合わせでご利用ください。

- PRIMERGY SAS スイッチブレード (6Gbps 18/6) のファームウェア版数 20.9.131.0 以降
- PRIMERGY BX900 S1/S2 マネジメントブレード ファームウェア版数 5.56 以降 または
PRIMERGY BX400 S1 マネジメントブレード ファームウェア版数 6.86 以降

4. 2.5 インチ PCIe SSD (PY-BS08PA / PYBBS08PA / PY-BS16PA / PYBBS16PA / PY-BS20PA / PYBBS20PA) ご使用時の留意事項

PRIMERGY BX2560 M2 アップグレード&メンテナンスマニュアル 6.4 項にてホットプラグは記載制限事項を満たす場合のみ可能とされていましたが、上記製品はホットプラグに初版 BIOS より対応しております。ホットプラグの詳しい手順は下記 URL より対応製品の製品情報をご参照ください。

<http://jp.fujitsu.com/platform/server/primergy/archive/peripheral/disk.html>

5. 内蔵ストレージデバイスのアクセス LED について

本製品に以下に記載の内蔵ストレージデバイスを搭載した場合、HDD/SSD アクセス表示ランプ(緑色)が点灯しないことがあります。故障ではありませんので、そのままご使用ください。

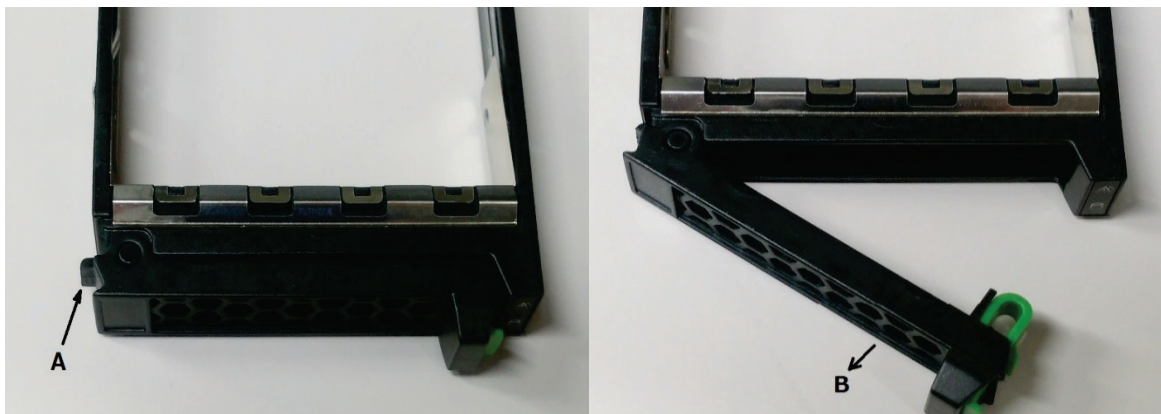
※ HDD/SSD 故障ランプ(オレンジ色)は、内蔵ストレージデバイス故障時などに正常に点灯・点滅します。

[対象となる内蔵ストレージデバイス]

- BC-SATA HDD (SATA 6Gbps, 7.2krpm, 512e) 1TB / 2TB
: PY-BH1T7F7 / PYBBH1T7F7 / PY-BH2T7F7 / PYBBH2T7F7
- BC-SATA HDD (SATA 6Gbps, 7.2krpm, 512n) 1TB / 2TB
: PY-BH1T7D5 / PYBBH1T7D5 / PY-BH2T7D7 / PYBBH2T7D7

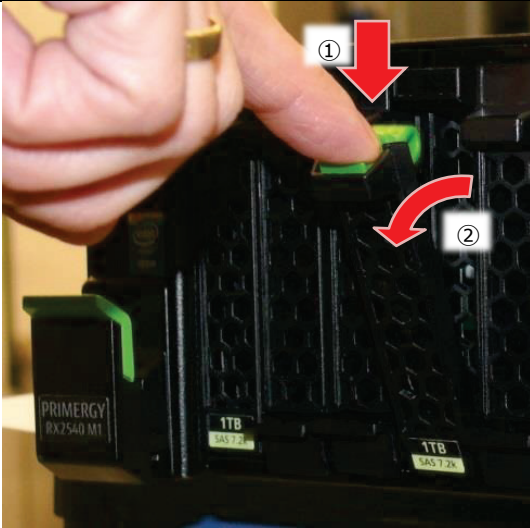
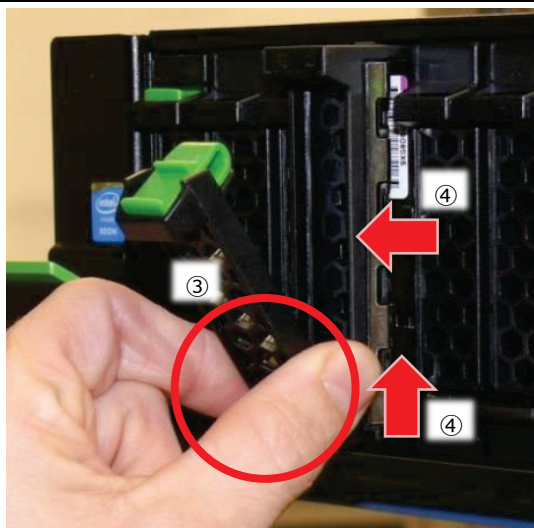
6. 2.5 インチ HDD/SSD 取り外し時の留意について

2.5 インチ HDD/SSD を取り外す際に、下左図の A の部分のフックがかかっているため抜けづらいことがあります。その際、HDD/SSD トレイへ無理に力を加えると、トレイが破損してしまうことがあります。



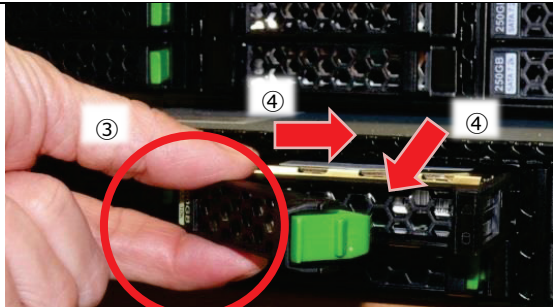
取り外しにくい場合は、上右図 B の方向に無理に力を加えるのではなく、下記の手順を参考に取り外してください。

[HDD/SSD トレイが縦向きに搭載されている場合]

	
①タッチポイントを押して、ロックを解除します。 ②手前にリリースレバーを約 45°手前に倒します。	③リリースレバーの根元をつまみます。 ④トレイを軽く持ち上げて、サーバから引き抜きます。

※ トレイを持ち上げても引き抜けない場合は、一度 HDD/SSD を元の位置に戻して、手順①から再度実施してください。
(HDD/SSDを元の位置に戻した際に、リビルドが自動実行された場合は、リビルドを停止してから、HDD/SSDを引き抜いてください。)

[HDD/SSD トレイが横向きに搭載されている場合]

	
①タッチポイントを押して、ロックを解除します。 ②手前にリリースレバーを約 45°手前に倒します。	③リリースレバーの根元をつまみます。 ④トレイを軽く右方向へスライドしてから、サーバから引き抜きます。

※ トレイをスライドしても引き抜けない場合は、一度 HDD/SSD を元の位置に戻して、手順①から再度実施してください。
(HDD/SSDを元の位置に戻した際に、リビルドが自動実行された場合は、リビルドを停止してから、HDD/SSDを引き抜いてください。)

【BX2580 M2 のみ】

1. 内蔵 1.8" SATA SSD の搭載について

内蔵 1.8" SATA SSD(PY-SS24NL/PYBSS24NL/PY-SS48NL/PYBSS48NL)を搭載するには、SAS アレイコントローラ拡張ボード(PY-SRD08/PYBSRD082)の手配が必須になります。

2. 64GB LRDIMM のサポートについて

本装置では初回出荷時には 64GB LRDIMM をサポートしていません。

本装置のオペレーティングマニュアルに記載している最大メモリ容量は 1536GB になっていますが、64GB LRDIMM 使用時の値になっており、初回出荷時には最大メモリ容量は 32GB RDIMM 使用時の 768GB になります。

64GB LRDIMMは、2016年6月7日にサポート可能となりました（BIOS版数 R1.4.0より使用可能）。

【BX2560 M2/BX2580 M2 共通】

1. UEFI モードについて

UEFI モードの設定方法や OS およびオプションのサポート状況に関しては、下記 URL をご参照ください。

<http://jp.fujitsu.com/platform/server/primergy/products/note/>

2. Red Hat Enterprise Linux 6/ Red Hat Enterprise Linux 7 を使用時の注意事項について

Red Hat Enterprise Linux 6 および Red Hat Enterprise Linux 7 を USB3.0 で使用すると IERR が発生する可能性があります。そのため、ご使用になれません。

BIOS 設定の [Advanced]-[USB Configuration]-[xHCI Mode] を "Disabled" に設定してご使用ください。

3. 液晶ディスプレイの接続について

フロント Y ケーブルに接続した液晶ディスプレイの画面調整する場合、自動調整に失敗するため、"Auto" を使用しないでください。画面調整する場合は、マニュアル操作で液晶ディスプレイの画面調整をしてください。

4. Xeon プロセッサー E5-2697v4, E5-2697Av4, E5-2699v4 および E5-2699Av4 搭載時の吸気温度について

Xeon プロセッサー E5-2697v4, E5-2697Av4, E5-2699v4 および E5-2699Av4 を搭載した本製品を PRIMERGY BX900 S1 シャーシおよび BX900 S2 シャーシに搭載してご使用される場合、吸気温度が 28℃未満の環境でご使用ください。

5. ソフトウェア RAID とハードウェア RAID の相違点について

本製品は、ソフトウェアの処理により RAID 機能を実現しております。ハードウェア RAID コントローラと比較すると、機能面・性能面に差がございます。詳細は下記 URL をご参照ください。

http://jp.fujitsu.com/platform/server/primergy/hdd_construct/

http://jp.fujitsu.com/platform/server/primergy/hdd_construct/note03.html

6. SAS コントローラ拡張ボード/SAS アレイコントローラ拡張ボード 搭載時の注意事項

SAS コントローラ拡張ボード(PY-SCD08/PYBSCD082) または SAS アレイコントローラ拡張ボード(PY-SRD08/PYBSRD082)をご使用の際は、BIOS 設定の[Advanced]メニュー-[Option ROM Configuration]-[Launch Slot 3 OpROM]を[Enabled]に設定してご使用ください。

7. 内蔵ストレージデバイスのオンボード SATA コントローラ接続について

本製品では、オンボード SATA コントローラに内蔵ストレージデバイスを AHCI Mode (非 RAID 構成) で接続してご使用になれません。オンボード SATA コントローラに内蔵ストレージデバイスを接続する場合は、必ず RAID を構成する必要があります。

ただし、VMware をご使用になる場合を除きます。

8. OS 仮想機能について

本製品では、オンボード SATA コントローラを RAID モードでご使用される場合、Hyper-V、KVM、VMware などの OS 仮想化機能をサポートしていません。

9. ファイバーチャネル拡張ボード(8Gbps)について

ファイバーチャネル拡張ボード(8Gbps)をご使用の場合、サーバ起動時にファイバーチャネル拡張ボード(8Gbps)を認識する画面が2度表示されたり、サーバ起動時に"F12"押下でブートメニューを表示させると2つのターゲットが表示されたりしますが、どちらを選択しても同じ動作となります。

10. Dual port ファイバーチャネル拡張ボード(16Gbps)について

Dual port ファイバーチャネル拡張ボード(16Gbps)をご使用の場合、ServerView Virtual-IO Manager を使用しないでください。本拡張ボードのポート設定が一時的に変更され、本拡張ボードに接続できない可能性があります。

本件は、16Gbps ファイバーチャネル拡張ボード ファームウェア版数 11.1.172.15(2016年11月15日公開)で修正しました。

11. BIOS メニュー画面での長時間(24 時間以上)放置の制限

BIOS メニューの画面で24時間以上放置しないでください。BIOS メニューで24時間以上放置した場合、その状態からEscキーでBIOSメニューを終了せずに、以下の手順を実施してください。

BIOS メニューの「Save & Exit」タブから「Save Changes and Exit」または「Save Changes and Reset」を「Yes」で選択し、一度BIOS設定情報を保存してからOS起動させてください。

上記手順を実施しない場合、装置が起動できなくなります。装置が起動できなくなった場合は、サーバブレードの交換が必要になります。

本件は、BIOS 版数 R1.8.0(2017 年 2 月 10 日公開)で修正しました。

12. 省電力動作モードを使用時の注意事項について

省電力動作モードを有効にしてご使用の場合、稀にCPU IERR, PSOD, Fatal NMIといったシステムダウンが発生することがあります。(ただし、ハードウェア故障やBIOS版数が低い場合を除きます)

BIOS 設定の [Advanced]-[CPU Configuration]-[Power Technology] を "Custom" (初期設定値 : Energy Efficient) にし、下記のように設定してご使用ください。

- Enhanced SpeedStep : "Disabled" (初期設定値 : Enabled)
- Turbo Mode : "Disabled" (初期設定値 : Enabled) ※
- CPU C1E Support : "Disabled" (初期設定値 : Enabled)
- CPU C3 Report : "Disabled" (初期設定値 : Disabled)
- CPU C6 Report : "Disabled" (初期設定値 : Enabled)
- Package C State limit : "C0" (初期設定値 : C6)

※ Enhanced Speedstep が "Disabled" のままだと Turbo Mode の設定が有効にならず、変更ができないため、以下の手順で変更してください。

- いったん、Enhanced SpeedStep を "Enabled" に変更する (既に Enabled の場合は不要)
- Turbo Mode を "Disabled" に変更する
- Enhanced SpeedStep を "Disabled" に変更する

ご使用のOSがLinuxの場合は、あわせてカーネルパラメータの追記が必要です。

Red Hat Enterprise Linux 6 の場合 :

/boot/grub/grub.conf の kernel 行に

"intel_idle.max_cstate=0 processor.max_cstate=0"を追記してください。

Red Hat Enterprise Linux 7 および SUSE Linux Enterprise Server 12 の場合：
/etc/default/grub の GRUB_CMDLINE_LINUX 行に
“intel_idle.max_cstate=0 processor.max_cstate=0”を追記してください。
追記後 grub2-mkconfig コマンドで反映まで実施してください。

13. ID ボタン操作について

iRMC ファームウェア版数 9.04F 以降で、ID ボタン操作による iRMC リセット機能が追加されました。従いまして、ID ボタン操作による動作および ID ランプの点灯は以下の通りです。

[ID ランプを点灯させる]

・ID ボタンを押すと、ID ランプは青色で点灯します。4 秒以下で離すと ID ランプは点灯のままです。

[iRMC をリセットする]

・ID ボタンを 5 秒以上押すと、ID ランプは青色の点灯から点滅に変わります(*)。ID ランプの点滅中に離すと、1～2 秒後に iRMC がリセットされます。

[NMI を発行する]

・ID ボタンを 5 秒以上押すと、ID ランプは青色の点灯から点滅に変わります(*)。ID ランプの点滅中に離し、1 秒以内にもう一度押すと、NMI が発行されます。

* iRMC ファームウェア 8.86F 以前の版数では、ID ボタンを 5 秒以上押しても ID ランプは青色の点灯のままです。

対象：iRMC ファームウェア 9.04F 以降

なお、本件は以下のマニュアル記載該当箇所の訂正となります。

『BX25x0 M2 サーバブレード オペレーティングマニュアル』の「6.1 各部名称」の “ID ボタン”

『BX25x0 M2 サーバブレード アップグレード&メンテナンスマニュアル』の「5.1.10 ID ランプの点灯」の “フロントパネルの ID ボタンを使用する”

14. サーバブレード上の LAN ポートのオートネゴシエーション表示について

サーバブレードとイーサネット コネクションブレード間のポートの速度およびデュプレックスモード(全二重・半二重)は、イーサネット コネクションブレードのダウンリンクポートがサポートしている速度およびデュプレックスモードに自動で固定され、この動作はサーバブレードの OS 上で表示されているオートネゴシエーションの状態に依存しません。

例えば、ESXI5.x/ESXI6.x で、esxcli コマンドで表示されるオートネゴシエーションの初期値が無効であったり有効であったりする場合がありますが、この値を変更する必要はありません。また、速度やデュプレックスモードの値を、サーバブレード上で設定する必要はありません。

15. Inventory Boot 動作時の注意事項

POST 中に起動可能なデバイスが検出出来ない場合、POST 後に BIOS セットアップユーティリティが起動します。

この状態においては Inventory Boot (*) が完了できませんので、一時的に DVD ドライブや USB メモリ等のデバイスを接続するか、一時的に PXE ブートを有効にする、といった対応が必要となります。条件を満たしやすい、構築中や移設時に注意してください。

* サーバブレードの構成チェック動作です。電源オン状態のシャーシへサーバブレードを搭載した時や、シャーシの電源を投入した際に動作します。Inventory Boot ではサーバブレードの電源が自動的に投入され、POST 後に電源オフとなります。

16. マニュアル訂正事項

下線部が訂正箇所です。

14-1. 『PRIMERGY BX2560 M2 サーバブレード アップグレード&メンテナンスマニュアル』

訂正 「8.1 基本情報」

- 図 62, 64, 66, 68 のタイトル (175, 176, 177, 179 ページ)
 - 誤 : ~~~ Xeon E5-2637v4, Xeon E5-2643v4, Xeon E5-2667v4, Xeon E5-2697v4, Xeon E5-2697Av4, Xeon E5-2699v4 の場合の ~~~
 - 正 : ~~~ Xeon E5-2637v4, Xeon E5-2643v4, Xeon E5-2667v4, Xeon E5-2697v4, Xeon E5-2697Av4, Xeon E5-2699v4, Xeon E5-2699Av4 の場合の ~~~

14-2. 『PRIMERGY BX2580 M2 サーバブレード アップグレード&メンテナンスマニュアル』

訂正 「8.1 基本情報」

- 最大 RAM 容量 (140 ページ)
 - 誤 : 768 GB の LRDIMM、または 384 GB の RDIMM (プロセッサ 1 個)
1536 GB の LRDIMM、または 768 GB の RDIMM (プロセッサ 2 個)
 - 正 : 768 GB (プロセッサ 1 個)
1536 GB (プロセッサ 2 個)
- 表のタイトル (143, 144, 146 ページ)
 - 誤 : Xeon E5-2637v4, Xeon E5-2643v4, Xeon E5-2667v4, Xeon E5-2697v4, Xeon E5-2697Av4, Xeon E5-2699v4 を使用した、~~~
 - 正 : Xeon E5-2637v4, Xeon E5-2643v4, Xeon E5-2667v4, Xeon E5-2697v4, Xeon E5-2697Av4, Xeon E5-2699v4, Xeon E5-2699Av4 を使用した、~~~

以上